

UIFA JAPON

NEWSLETTER

■主な内容

レースワークの発展をめざして

UIFA JAPON 地域交流会

北海道交流会報告

愛知交流会報告

UIFA ウィーン大会まで一事業部会の動き

林雅子さんを偲ぶ

ユニバーサルデザインを考える「色にも音にも優しく」

シアトル大地震—ヘイスティングさんは無事！

この指とまれ

役員会報告

レースワークの発展をめざして

—活性化策と会員制度等検討ワーキングチームからの報告—

松川淳子 (理事・総務)

UIFA JAPON の設立からはや8年が経過した。この間、南アフリカ、ハンガリーと海外の二大会に参加したこと、日本大会を主催したことなど、貴重な経験も積んできた。今年は7月にウィーン大会が開かれる予定で、これにもたくさんの会員の参加が予定されている。年に3回開催している海外交流の会も、次回3月10日で23回目、ニューズレターは新年号で45号を発行した。

日本大会を契機に会員数が飛躍的に伸び、活動が活性化する一方で課題も出てきた。東京圏以外の会員にとって、東京を中心に行われる活動がなかなか参加しにくい、ということが第一である。また、名簿には一応掲載されているものの、会員の实態ももう少し詳しく知りたい、ニューズレターはどう読まれているのだろうか、会の活動をより活発にするにはどうしたらよいか、IT時代に画期的な会の運営はありうるか、など、日ごろ気になっている課題検討に手をつけてみよう、と、理事会の内部に「会員区分検討ワーキングチーム」(会長、副会長のほか、監査役の東、総務の中井、柳澤、松川の6名で構成)を設置し、昨年11月から作業を開始した。

このワーキングでは、①会員の实態や会の活性化策等についてアンケートを実施する、②複数の会員がいる北海道、愛知で、UIFA JAPON の広報をかねて小規模な集まりを持ち、東京圏以外の地域からみでの参加の仕方について意見を収集するというを行い、その結果をまとめて3月までに会員区分についての見直しを役員会に提出する予定である。

アンケートは昨年暮から新年にかけて実施、皆様のご

協力を得た。北海道交流会は2月10日(土)に札幌で、愛知交流会は2月17日(土)名古屋で開催し、どちらもそれぞれの地域の特色がよく出た楽しい会になった。

交流会はそれぞれ担当した中井、柳澤両理事の報告があるので、ここでは現在集計・分析が進行中のアンケートについて簡単に途中経過を報告する。

■回収率55.2%—暮れから正月という時期にあたったこともあって回収率はあまりよくなかった。

一般アンケートを郵送法で実施すると回収率は50%程度であるが、会員に対するアンケートなので、もう少し期待していた。がっかり—という声も出たが、まあまあこんなところではないか、ということになっている。

■自由回答への反応が高かった—回収率が悪かった代わりのように、戻ってきた分にはたくさんの書き込みがあり、会員区分や会の活性化策についての熱心な意見がみられた。国際交流が目的の会であることを明確に打ち出すべきだという強い意見もあった。

■IT (information technology) の活用が求められている—会員の種類を多様化する、東京圏以外での行事開催を増やすなどの意見とともに、ホームページの開設などの意見が目立った。

■社会に働きかける会でありたい、教育、環境、研究などの部会をつくるのはどうか、など、積極的提案もみられた。決して多くない会費が収入源のすべてである小規模な会として、会員皆さんの意見をどう反映するべきか、現在、ワーキンググループでは方向を模索中である。すでに名古屋の交流会では、「入会したい！」という声もあがり、さっそくの反応に喜びながらもきちんとした結論を出さなくては、と、ワーキングチームは気合を入れなおしている。最終報告にご期待を！

■「北海道交流会報告」

地域で孤立しがちだからこそ、交流が大事

中井和子 (理事・総務)



遠方の町からも参加 (北海道交流会)

「北国のまちづくり」をめぐる交流会

北海道交流会は、2月10日(土)の13時から3時間、札幌市生涯学習センター研修室で開催されました。東京から総務担当の松川さんと広報担当の渡辺さん、名古屋から柳澤さんの3人をお迎えし、札幌からは副会長の小川先生を含む3人のUIFA JAPONメンバーが対応しました。(社)北海道建築士会女性委員会の協賛を得て、北海道の建築家やデザイナー、公務員、研究者の方々が出席されて、合計31名の参加者がありました。稚内や釧路など札幌より遠方の町からのご参加もあり、なかなか活発で熱気のある交流会であったと思います。

交流会は「北国のまちづくり」～北国の住環境づくりを見て・語る～の大テーマを掲げ、3部構成で実施いたしました。①UIFA JAPON の紹介とUIFA JAPON世界大会のビデオ上映、②北欧の福祉・住環境のお話と「安心して老いるために」のビデオ観賞、③フリー討論会形式で、北国の住環境づくり、福祉のまちづくり、女性建築家の役割などについての意見交換の順序で行いました。

今後も地域での積極的な交流を！

フリー討論会ではとても活発に意見交換が行われ、東京や名古屋のUIFA JAPON メンバーからの発言もあり、たいへん熱気と活気にあふれた楽しい交流会でした。当日の参加者には、北海道交流会の感想を記してもらったのですが、いずれの内容も地方で孤立しがちな女性建築家にとっては、今回の交流会はとても有意義であり、たいへん刺激を

受けたと言う感想が書かれ、21世紀は女性の能力や感性が発揮できる社会にしたいと言う主旨で結ばれていました。北海道は首都圏からは地理的遠隔地ですが、地方で仕事をしているほど、日本や世界の情勢に敏感でそれぞれが関心を抱いています。今回のように、国際女性建築家会議を通して、世界や日本の女性建築家やデザイナー等の動向に触れる機会を持てたことは、たいへん意義あることであったと考えます。しかしながら、今回の交流会が参加者のUIFA JAPONの入会にすぐに結びつくとは思えませんが、今UIFA JAPONの存在を通して、女性の建築家やデザイナーや研究者の方々相互のネットワーク化が図られていけば、UIFA JAPONへの認識も深まり、大きな力に結集して行くのではないのでしょうか。

■「愛知交流会報告」

国際交流のイメージが変わった！

柳澤佐和子 (理事・総務)

UIFA 日本大会のビデオに感激！

中原暢子会長と松川淳子総務理事の2名を迎え、地方で活躍している中堅、これから活動を期待したい若い女性建築デザイン関係者に集まって頂き2月17日(土曜日)14時から約2時間半にわたり、愛知芸術文化センター12階アトスペースCで交流会が開催されました。

中原会長からUIFAの紹介があり、松川総務理事からこれまでの活動状況をお話頂いた後、第11回ハンガリー大会、第12回日本大会の記録をビデオで見させて頂きました。世界の女性建築デザイン関係者とのシンポジウムや情報交換の様子、民俗衣装をまとった華やかなパーティやオブションでの楽しい見学会など、映像からの情報は強力でした。見終わってから、「国際会議という固いイメージを抱いていたが、思い切って踏み込んで生の交流をしてみたい」と言う声も多々ありました。松川さんが「国際大会という雲の上のようだと思われがちだが、語学が出来なくても、すぐ仲良くなれて、話しも弾むのよ」と国際交流の楽しさを話して下さいました。

同じ会場で開催されていた若い女性建築家達の作品展示会を見て下さり、中原会長から励ましのコメントも頂きました。

仲間を作って悩みを解決しよう

ティータイムを挟んで、自己紹介が始まり、仕事や自

第13回 UIFA ウィーン大会まで —事業部会の動き—

正宗量子(理事・事業)



交流会をとおして入会希望者も！(愛知交流会)

分達の活動状況、また問題や壁にぶつかっているがどうしたら良いかという先輩への質問等もありました。それに対して中原会長は「年寄りだって壁にぶつかっているわよ」「最初は事務所で失敗し、止めようと思って所長に話したら、独りでいるからいけない、仲間を作りなさいといわれて PODOKO を作り、仲間と一緒に活動を続けてきた」というお話は永年のキャリアから出てくるパワーを感じさせられました。参加者たちも、先輩達の力強いアドバイスから、肩ひじをはらずに自然にこうと元気が出たようです。

女性建築士会員、柳澤研究室 OG、UIFA 会員等 19 名のアットホームな集まりでしたが、参加に向けての活発な意見も聞けて、2 時間半があつという間に過ぎていきました。北海道にもまげず寒い日でしたが、入会希望の方も含めて終わった後、ビールでの乾杯は楽しかったです。

ウィーン大会までの準備第 1 弾の企画は、3 月 10 日(土)に催す伊藤哲夫先生をお招きしての「ウィーンの都市と建築」のお話。古代ローマの都市から政治や流通経済の発達著しい円環状や十字形は、現代都市構造の原型のようにオーストリアの都ウィーンを中心に中世都市を形成。そして、この国の風土は、さまざまな異民族の文化の交叉を重ね、ロマネスク、ルネッサンス、バロック、新古典主義に於けるビーダ-マイヤーや、イギリスの住文化の建築に影響されつつ近代都市への永い歴史を紡いできた。カール教会、オットー・ワグナーの存在や都市ウィーン建築の装飾への告発、宮廷都市の現在、大労働者都市としてのウィーンなど興味溢れるお話にこの国の建築と歴史の輪郭を掴もう。

4 月 7 日(土)の午後は“この指とまれ”で第 22 回海外交流の会にお招きした川西美沙さんのご紹介で、柴又帝釈天付属ルンビニー幼稚園を見学することが決まった。

4 月 21 日(土)の第 24 回海外交流の会には先の川西さんの「みることとみえること」の会に出席しておられた建築家西野雄一郎氏が設計した幼稚園の見学と来日中のモンテッソーリの教育者モンタナール女史を交え幼児教育のお話を伺った後、意見交換をすることになった。

第 25 回海外交流の会は、5 月 26 日(土)。トラベルライター谷澤由紀子さんをお招きしてウィーンの歴史上重要なハプスブルグ家について、その末裔との交流などを通じた建築とはやや異なった視点からのエピソードや楽しいお話を企画中だ。

6 月 9 日(土)の総会の記念講演会には、長沢泰先生をお招きしてウィーン大会のテーマ「Before and after the active life」の「After the active life」についてのお話を展開していただく予定。その他、ウィーン大会にあたり各会員の協力により資料を作成することにより、更に研究研鑽を重ねそれを有効活用したいとの意見を具体化すべく皆様のご協力をぜひお願いしたい。

■訃報 UIFA JAPON 会員 林雅子さん

林・山田・中原設計同人代表取締役 林雅子さんが 1 月 9 日ご逝去されました。72 歳。ご冥福を祈り、謹んでお知らせいたします。

■林雅子氏を偲ぶ

1 月 9 日、千日谷会館で行われた林雅子氏のお別れの会に参りました。風の強い、寒い日でしたが大勢の方々が参会されました。白い幕と白い花々で飾られた祭壇のご遺影の前で林昌二氏は、お二人がお互いを尊敬し、支えあい、励まし合って来られたことや雅子氏が第一線で活躍している建築家であると同時に家庭人としても優れた妻であったことなどを話され、参会者に深い感動を与えました。雅子氏は私の大学の先輩であり、学生の頃から発表されるその作品に夢中にさせられた建築家でした。また、建築学会賞を受賞された作品のなかに友人宅芦沢邸(三層の家)があったことも雅子氏を身近かに感じる端緒となりました。昨年 11 月 2 日、正宗量子氏にお伴した吉武由子氏のコンサート会場で思いがけずお目にかかったその帰りに、昌二氏の腕に支えられつつ歩み去られたお姿が、降りしきる雨のなかに白く滲みながら幻影のように次第に遠ざかって行った情景が今も脳裏に焼き付いています。

女性建築家の地位を確立された林雅子氏に後輩として深く感謝するとともに、残された書物や作品に生き続ける思想を受継いで行くことが、後に続く者の務めであるとの思いが胸の奥で響くのを感じています。

(栗山楊子)



ユニバーサルデザインを考える

「色にも音にも優しく」

吉田あこ

21世紀に突入し、人間像を幅広く受け取る風潮が出てきた。いつも座っている人、足腰の重い人、耳の遠い人、見え方が違う人等のライフスタイル包含である。

私は20年前から研究上で、人は年を取ると視野が黄ばみ、この結果見えなくなる色もあることを発見し、加齢黄変色眼鏡を開発し、このシュミレーション視界で見ると、東京駅新幹線のサインの“のりば”の青色がその背景に消失することや、ゆで卵の黄身が白身の背景のなかに消えたり、ガスの青い炎の先が灰色化して見えにくくなる変色を発見し、続いて、インテリア色変色からくる空間誤認と事故もかなりあることに気づき、仕上げ材各種色見本を色差計で計測し、デザイナーのための加齢黄変色事典を試作し、国際会議で発表してきた。

また、年をとると、全体として大きな音が必要になるだけでなく、高い音がどんどん聴こえなくなる。この結果、電話やインターホン・洗濯機の終了音など警告音が聴こえにくく、時に違った音に取り違えられる現象を発見し、電子音に低い音も混ぜ、またメロディを入れたデザインにし、若者も選択可能な電子音の製品へと開発した。高齢ドライバーにも聴こえやすい救急車のサイレン音や携帯電話にも生かされてきた。

今は、高齢難聴者も楽しめる磁力線つき補聴効果の音楽堂の開発をしている。聴こえを言語という左脳の理解だけでなく、右脳理解の音楽に挑み、そして、難聴者が目で楽しい音楽へと建築設計を進めている。

■シアトル大地震—ヘイスティンクスさんは無事！

2月28日、米国ワシントン州シアトルでM6.8の地震があった。シアトル在住のUIFA理事、J・ヘイスティンクスさんに宛ててお見舞いを出したところ、「被害はあったが大丈夫。お見舞いに心から感謝する」とのお返事だった。

(松川淳子)

■この指とまれ

海外交流の会「みることとみえること」と題してお話下さった川西美沙さんのご案内で「帝釈天附ルンビニー幼稚園」と「帝釈天経寺の庭園」などを訪問します。幼稚園遊具デザインは、イサム・ノグチ。多彩な見学で楽しみます。近くに「山本亭」があり、美しい庭園を眺めながら和室でお茶をすることができます。桜の美しい季節でもあり、矢切の渡しや寅さん記念館、おだんごもあり、見学後も楽しめます。

日時：2001年4月7日(土)午後
集合場所：13:30に京成柴又駅改札口に集合。
時間厳守。

(ルンビニー幼稚園所在地：葛飾区柴又7-10-30)
参加費：会員1,000円 会員外1,500円
申込み：UIFA JAPON 事務局
FAX03-5275-7866
E-mail:uifa@LIQL.CO.JP

企画：広報担当(渡辺)

■役員会報告

第9回 2001年1月12日(金)

出席者：中原、小川、松川、山田、渡辺、草野、柳沢、中井、栗山、正宗、田中
議事一・北海道交流会が2月10日「北国のまちづくり」のテーマで開催予定。
・愛知交流会が2月17日開催予定。
・第23回海外交流の会は伊藤哲夫氏による「ウィーン建築」。
・第24回海外交流の会は小川伸・モンテナル氏による“Before the active life”
・2001年度総会後の講演会は“After the active life”とする。

第10回 2001年2月19日(月)

出席者：小川、飯島、松川、峯、東、山田、吉田(欠)、渡辺、草野、栗山、正宗
議事一・財源不足について。会費未納者に督促する等の対策。
・今後の海外交流の会の計画について。
・回収されたアンケートについて。

■広報だより

お詫び：前号の川西美沙さんの「みることとみえること」のお話の写真説明「フレイベルの絵本・・・」とあるのは「レオ・レオーニの絵本を・・・」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

今年は7月にウィーン大会が開催され、2月には北海道と名古屋で地域交流の会も開かれ、UIFA JAPONの活動が活発化しています。これからの活動に期待がかかります。
広報担当：渡辺、飯島、田中、井出、今村、須永、北本、中村、大高、六反田、柏原